

学校で保護者対象の学びを企画する方へ！

～「親学習プログラム」をやってみませんか？～

皆さんの学校では、保護者同士が子育てについて学び合う機会は設けられていますか。
「子どもが高校生にもなって、今さら保護者が学ぶ必要があるのか。」という声もあるかもしれませんが、高校生は、社会に出て独り立ちする準備の時期で、保護者が子育てに関わることができる最終段階の時期でもあります。

親としての学び合いを高校でも

子どもが高校生になると、親はほっとして子育てが終わったような気持ちになることが多いと思います。しかし現実には、終わるところか、新しい悩みや不安が山積します。高校生になったのだからと、放任してしまう親もあります。親子でほとんど会話ができなくなることもあります。

世の中はどんどん変化して、子どもたちが世の中で活躍する 10 年後、20 年後には通信手段も職業も働き方も大きく変わっていることでしょう。親世代が自分たちが学んだ知識や技術を子ども世代に教え込むという時代ではなくなりました。親もまた新しい親の役割を学んでいかなければならない時代です。親たちはどのように親の在り方を学んでいけばよいのでしょうか。

大切なことは、同じ世代の親同士が、共に学び合うことで最も力になる学習ができるということです。

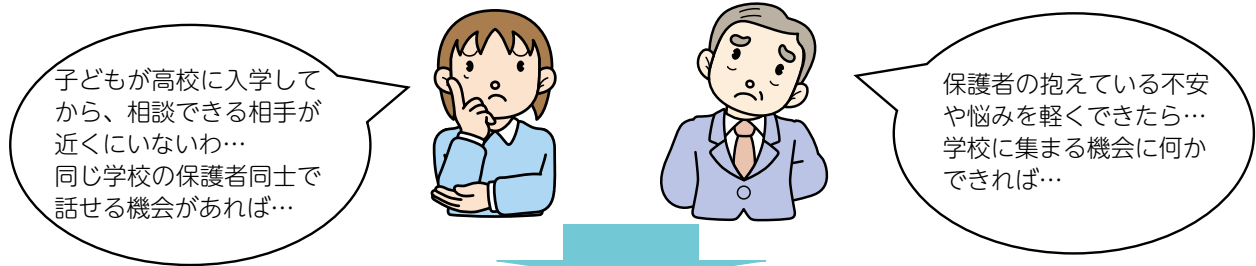
子どもの将来や生き方などについては、正しい答えが一つだけあるわけではありません。親の在り方も正解が一つではありません。いろいろな親がいろいろな子育てをしています。多様な生き方、多様な考え方があることを知ること、なぜそうしているのかを知ること、自分も豊かになることができるのです。

親の役割は終わることはありません。学校は、もっと思春期の子を持つ親同士が、学び合える場となって欲しいと思います。保護者や教師、地域の人材と一緒に、自分の学校に合った学びの場を工夫されることを期待します。



宇都宮共和大学
特任教授
牧野カツコ

◎学校でこんなことはありませんか？



「親学習プログラム」を活用すると効果的な話し合いができます！

「親学習プログラム」とは…

- ・保護者同士が身近なエピソードやワークを通して話し合いながら子育てに必要な知識やスキルを主体的に学ぶ、参加型の学習プログラムで、栃木県教育委員会が作成したものです。
- ・保護者同士の交流が深まったり、保護者と学校の距離が縮まったりするなどの効果があります。
- ・プログラムは、社会教育主事や研修を受けたボランティアがファシリテーター※を務めます。
- ・30 ～ 120 分の展開例がありますが、参加者の状況や人数、クラス単位や学年単位、使用する場面や時間、場所等に応じて展開の仕方を自由に工夫できます。

※ファシリテーター：プログラムを進行していく人（促進者）のことで、開放的な雰囲気づくりを心がけ、参加者の主体性を尊重し、特定の方向に意見を導かないよう促します。



☆標準的なプログラムの流れ

- アイスブレイク
 - ・参加者の緊張や場の雰囲気、和やかにします！
- グループ分け
 - ・話し合い等が行いやすい人数（4～6人）にします！
- ワーク
 - ・テーマに沿った話し合いや簡単な体験など内容は様々です！
- 振り返り
 - ・気づきや意見等を聞きまとめる場とします！

詳細はこちら！⇒

とちぎ親プロ

検索

P T A総会や学年保護者会で実施できます！

～短時間でも有効な学びの場に！～



～栃木工業高校での実践～

【実施プログラム】

☆テーマ「思春期の子どもとの向き合い方学習会～我が子は思春期真っ只中～」

☆参加者：第1学年保護者

☆会場：体育館

☆展開：設定時間 30 分

○自己紹介・グループ分け

○ワーク

・子どものことについて最近気になっていることなどを自由に話す

・資料をもとに思春期の子どもの特徴や傾向を確認する

○振り返り

栃木工業高校では、これまで講話型の P T A 学年部会が通例で、親同士が交流を図りながら子育てについて振り返るといった新たな内容を取り入れたと考えていました。そこで、保護者同士で話し合い、親として子どもにどう関わるかについて考えるきっかけになることを期待して、参加型の学習会を新たに実施しました。

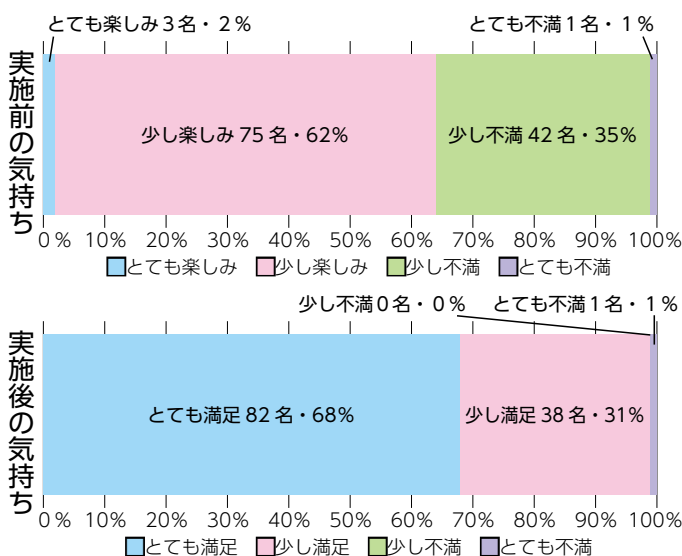
保護者が大満足！

当日は、約 120 名の保護者の方が参加しました。実施前とても楽しみにしていた方は 2%でしたが、実施後とても満足した方は 68%になりました。少し満足と合わせると 99%になり、ほとんどの方が満足だったことがアンケートの結果からも分かります。



〈新たなつながりをつくれた話し合い〉

●思春期の子どもとの向き合い方学習会アンケート集計結果より



【保護者の声】

- ・他の保護者の方といろいろ話せたり、同じ悩みがあることを知ったりして、安心することができた。
- ・このような機会がないと話をするチャンスもないので、今回はとてもありがたい学習会だった。

【参観した教員の声】

- ・保護者が生き生きと話している姿を見て、参加者同士の交流が深まるといった「親学習プログラム」のすばらしさを実感した。
- ・年度当初に実施すれば、さらに効果が期待できると思う。

実施は
とても簡単！

【実施までの流れ】

学校・PTA

「PTA総会後の全体会で子どもとの関わり方の内容でプログラムを実施してみよう。」まずは相談

総合教育センター

「では、期日や内容等について確認をさせてください。」後日、ファシリテーターが学校に連絡し詳細を確認

実施当日

ファシリテーターが資料の準備や運営など全てを担当



講話と「親学習プログラム」を組み合わせることで実施できます！

～講話内容の理解が深まる！～



～栃木特別支援学校での実践～

【実施プログラム】

☆講話「思春期の子どもの関わり方」(60分)の後に実施
☆テーマ「思春期の子どもの関わり方～レッツ・親トーーーク～」

☆参加者：保護者(小～高)

☆会場：音楽室

☆展開：設定時間 25分

○自己紹介・グループ分け

○ワーク

・講話の中で心に残ったことや聞いたことなどを自由に話す

○振り返り

栃木特別支援学校では、これまで講話中心のPTA研修会を行い話を聞くだけで終わっていましたが、参加者が講話内容をより深く理解できるような工夫ができないか考えていました。そこで、講話後に参加者同士で気付いたことや考えたことなどを話し合い、今後の子育てのヒントを得るきっかけになることを期待して、参加型による振り返りを組み合わせて実施しました。

振り返りに有効！

実施後のアンケート結果から、短時間の話し合いでも安心した雰囲気の中で、子育てについて振り返り、今後実践したいことなどを考える機会になっていたことが分かりました。



〈熱心に語り合う様子〉

☆講話を生かしたふりかえりに参加しての「気持ち」や「学び」は？(実施後アンケート結果)

【複数回答】

- ・自分の子育てを振り返る機会となった。(85.7%)
- ・他の人も同じような悩みや不安を持っていることが分かり安心した。(71.4%)
- ・これから生かしたい、実践したいと思えることがあった。(52.4%)
- ・新たなつながり(知り合い)をつくることができた。(23.8%)
- ・今後のPTA活動や学校行事に参加しやすくなった。(14.3%)

【保護者の声】

- ・何をするのかよく分からず参加したが、とても楽しい時間を過ごせた。
- ・他の方との話し合いなどにより、気付かされることが多く、とても勉強になった。

【ファシリテーターの声】

- ・「親学習プログラム」指導者研修修了者の私が、特別支援学校の元保護者でもあることを生かしながら務めたことは、自分にとって大変貴重な経験となった。今後の活躍の場を広げる一歩につながったと感じた。

【参観した教員の声】

- ・ファシリテーターの雰囲気づくりや進行の巧みさに圧倒されたと同時に、保護者の生き生きした姿が見られ実施してよかった。

☆「親学習プログラム」には、思春期の子を持つ保護者対象のテーマがまだまだあります！

(ここではテーマとねらいを一部紹介します)

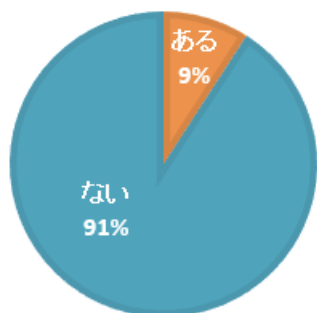
テーマ	ねらい
子どもに条件をつけて接していませんか？	思春期を迎えた我が子に、かけがえのない大切な存在であることをどのように伝えたらよいかについて考える。
我が子の進路とどう向き合っていますか？	卒業後の進路選択を考える時期を迎えた我が子との望ましい接し方について考える。
あなたならどうしますか？～家庭における性教育～	子どもたちの性や男女の付き合い方について、家庭でどう関わるかについて考える。

☆講話のテーマを自由に設定し、その内容を振り返ることが可能です！

例) 成年年齢引き下げに伴い、栃木県県民生活部くらし安全安心課(栃木県消費生活センター)が実施している消費者トラブル未然防止の出前講座(無料)に、振り返りを組み合わせてはいかがでしょうか！
テーマ：最近の悪徳商法の手口と対応方法について(所要時間：60分～90分)

例) 当センターのスマホやネット利用に関する講話と組み合わせることもできます！

親学習プログラムの活用



〔県立学校対象のアンケート調査より〕

交流しながら主体的に話せる場を充実させよう！

参加者が主体的に話し合うのに有効で、準備もなく手軽に実施できる親学習プログラムですが、県立学校（高等学校・特別支援学校・附属中学校）88校を対象に実施したアンケート調査では、活用している学校は1割に満たない結果でした。活用されない大きな理由は、親学習プログラム自体を知らないからということも判明しました。保護者会で参加者が交流しながら主体的に話せる場を設けて、効果を上げている学校もあります。そのような場を企画したいとお考えの際は、親学習プログラムをぜひ一度お試しください。

鹿沼東高校を紹介します！

平成30年度第1学年保護者学習会より

☆「思春期版家庭教育支援プログラム促進モデル事業」のモデル校として平成25年度に「親学習プログラム」の実施をスタートして以来、継続しています。なぜ続けているのか秘訣などをきいてみました！

Q どのように実施していますか？

A 毎年10月頃、「思春期の子どもとの関わり方」をテーマに第1学年保護者学習会で実施しています。毎回保護者の満足度が高く、教員にとっても保護者理解につながる貴重な時間となっています。

Q 実施することでどんな効果がありますか？

A 保護者同士をつなぐネットワークづくりになり、生徒と親を孤立させないために大いに役立っています。また、保護者向けの学びの場として提供できるため、家庭の教育力向上が図れます。

Q 継続できている要因は何ですか？

A 準備いらずで手軽に実施できる上に、生き生きと参加する保護者の姿を実際に目の当たりにした教員の保護者理解につながっていることが大きな要因になっていると思います。そして、次年度の行事にしっかりと組み入れているのも大切なところです。

Q 今後については？

A 第2学年のPTA総会後にも「親学習プログラム」を取り入れる計画を立てています。

☆保護者や教員の声…

保護者とコミュニケーションが取りやすくなり、子どもに関する情報共有が密にできるようになりました

保護者と学校の距離が縮まるきっかけになり、PTA行事の参加率が上がりました

子育てについて新たな気づきが得られるとともに、高校生の時期は子どもに向き合う最後のチャンスだと気付くことができました

あの話合いで多様な考えに気づき、悩みや不安が小さくなり子育てが楽しくなりました

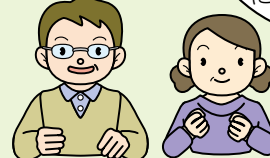
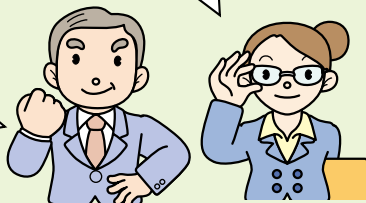
同じグループになった保護者の方とは、話合いをきっかけに新たな交流が始まり、卒業した今でもよき相談相手になっています



担任とファシリテーターが簡単に打合せをしてから開始しました



各クラスにファシリテーターが入り、ファシリテーターの見事な進行により終始明るい雰囲気でした



平成30（2018）年度思春期の家庭教育支援に関する調査研究
【研究協力委員】

- 牧野カツコ 宇都宮共和国 特任教授
- 伊吹 桂子 栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会
- 生井 泉 親学習チーム日光
- 栃木県教育委員会事務局 生涯学習課 家庭教育担当
- // 各教育事務所 ふれあい学習課 家庭教育担当

まずはこちらに御相談ください！
栃木県総合教育センター生涯学習部
TEL 028-665-7206
FAX 028-665-7219

※リーフレットは、とちぎレインボーネットからダウンロードできます。



平成31（2019）年3月